

2022年2月14日

K u d a n株式会社

Kudan Visual SLAM、テキサス・インスツルメンツの エッジ AI 関連ソリューション向け TDA4VM プロセッサに対応

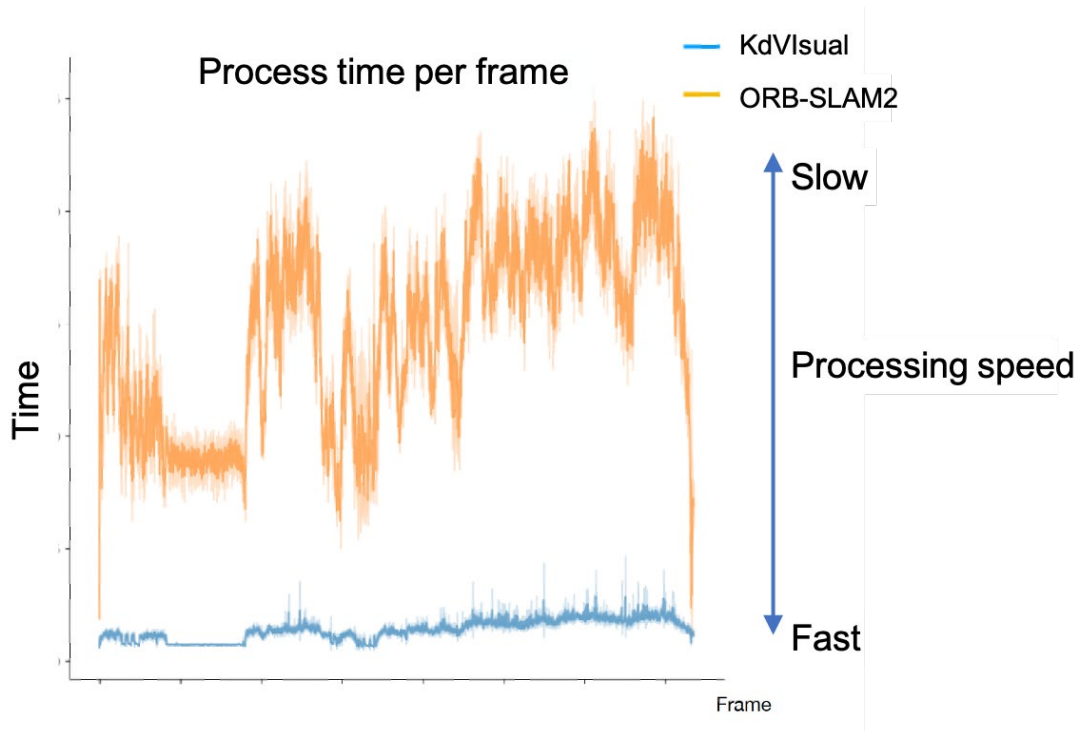
様々な場面で使用可能な SLAM 技術のリーディングプロバイダである K u d a n 株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役 CEO：項 大雨、以下 Kudan）は、Kudan Visual SLAM（KdVisual）がテキサス・インスツルメンツ（以下 TI）のエッジ AI 関連ソリューション向けの [TDA4VM プロセッサ](#) や次世代製品である 8 TOPS [TDA4VM プロセッサ・スタータ・キット](#)（SK-TDA4VM）にも対応しましたのでお知らせいたします。

Kudan は、TI の顧客が自己位置推定や環境地図作成の技術における要求水準を満たす製品の開発を支援してまいりました。多くの事例で、難易度の高い環境での高精度な動作に加えて、より迅速な市場投入のために開発期間を短縮することが求められています。ロボティクス領域、特に自律移動型ロボット（AMR）の領域では、年々ニーズが高まっています。

エッジでの AI を用いたソリューションを開発するため、Kudan は、ロボティクスフレームワーク上で TI の SDK と容易に統合でき、なおかつ自己位置推定・ナビゲーション機能を可能にする商用グレードの Visual SLAM ソフトウェアを提供しています。

Kudan が提供する技術サポートとソフトウェアのメンテナンス・バージョンアップによって、TI プロセッサを使用する顧客は、Kudan の高性能 SLAM と SDK 環境への容易な統合のメリットを享受することができます。

精度に加えて、Kudan の最適化された Visual SLAM では最も広く用いられているオープンソースの Visual SLAM である ORB-SLAM2 等と比べて 10 倍以上の処理速度、半分以下のメモリ使用量を実現しています。



様々なカメラタイプやカメラのスペックに対応可能な柔軟性もあり、精度・安定性・処理速度などの性能が重要な場面においては Kudan Visual SLAM が非常に有効な選択肢となっています。

【Kudan株式会社について】

Kudan（東証上場コード: 4425）は機械（コンピュータやロボット）の「眼」に相当する人工知覚（AP）のアルゴリズムを専門とする Deep Tech（ディープテック）の研究開発企業です。人工知覚（AP）は、機械の「脳」に相当する人工知能（AI）と対をなして相互補完する Deep Tech として、機械を自律的に機能する方向に進化させるものです。現在、Kudan は高度な技術イノベーションによって幅広い産業にインパクトを与える Deep Tech に特化した独自のマイルストーンモデルに基づいた事業展開を推進しています。

詳細な情報は、Kudan のウェブサイト (<https://www.kudan.io/?lang=ja>) をご参照ください。

■会社概要

会社名： Kudan株式会社
 証券コード： 4425
 代表者： 代表取締役 CEO 項 大雨

■お問い合わせ先は [こちら](#)

